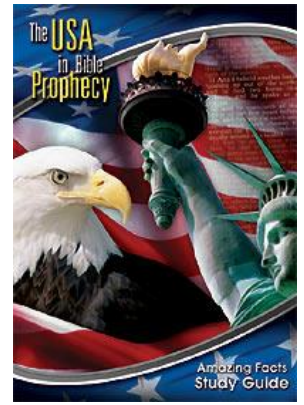


聖書に預言されたアメリカ

アメリカという一国が、本当に聖書に預言されているのでしょうか？確かに預言されているのです。世界で最も強力で影響力のある国家が、地上歴史の最後の驚くべき諸事件の中で、重要な役割を果たすということを知ると、納得がいくはずで、そして更に驚くべきことに、聖書はどのようにアメリカが存在するようになったかも示しています。このスタディーガイドを学ばれる前に、まず黙示録 13：11-18 を読んでください。これらの 8 節は、これからやってくる時代の中のアメリカの姿を預言しているのです。



1. 2つの世界的な勢力が黙示録 13 章に象徴されています。最初の勢力は何でしょうか？

答え： 7つの頭がある獣（黙示録 13：1-10）は、ローマ法王にほかなりません。



2. 法王至上権が世界的な影響力と権力を失うのは何年だと預言されていたでしょうか？

「この獣には、・・・42か月のあいだ活動する権威が与えられた」（黙示録 13:5）。

答え： 聖書は、法王至上権が 42 か月の終りに世界的な影響力と権力を失うと預言しています。この預言は 1798 年に成就しました。ナポレオンのベルティエ将軍は法王を捕虜にし、法王至上権は死ぬほどの傷を受けたのでした。

3. 法王至上権が死ぬほどの傷を受けたのとほぼ同じ時

に、どの国家が興ると預言されていたでしょうか？

「わたしはまた、ほかの獣が地から上って来るのを見た。それには小羊のような角が二つあって、龍のように物を言った」（黙示録 13：11）。

答え： 10 節に言及されている法王の捕囚は 1798 年に起りました。そしてその時、新しい勢力（11 節）が現れます。アメリカ合衆国は、1776 年に独立を宣言し、1787 年に合衆国憲法を作成し、1791 年に権利章典（人民の基本的な人権に関する宣言）が実施され、1798 年までには世界的な勢力として認められるようになりました。このタイミングはアメリカに合致します。他のどの国もとても当てはまらないのです。



黙示録 13:11-18 はアメリカを象徴する



Prophecy predicted that America would arise from a sparsely settled area.

4. 獣が「地から上って来る」ということには、どのような意味があるのでしょうか？

答え： この国家は、ダニエル書や黙示録に言及されている他の国々が海から上って来たようではなく、「地から上って」来ます。黙示録から、水というのは、人口の多い地域を象徴していることが分かります。「あなたの見た水、すなわち、淫婦のすわっている所は、あらゆる民族、群衆、国民、国語である」（黙示録 17：15）。地は、水とは反対のものを表わしています。ですからこれは、この新しい国家が 1700 年代後期には人口の少なかった地域から興る

という意味なのです。この国は、ヨーロッパの、人の多く、ひしめき合う国々から上って来る国ではありません。この国は、人口の少ない大陸から上って来たということにならなければなりません。

5. 冠の無い、二つの小羊のような角は何を表わしているのでしょうか？

答え： 角は王と王国、あるいは統治を表わしています（ダニエル 7：24、8：21）。この場合、二つの角は、アメリカの二つの統治の原則を表わしています。国民の(政治的)自由と宗教的自由です。この二つの統治の原則は、「共和主義」(王のいない政府)、そして「プロテスタント主義」(法王のいない教会)とも呼ばれています。古い時代の他の国々は、国教を維持するために国民に税金を課しました。多くの国々はまた宗教的に反体制の人々を抑圧しました。しかしアメリカは全く新しい体制を確立したのです。すなわち、個人の望むように礼拝する自由は、政府によって干渉あるいはコントロールされず、むしろ政府によって保護されていたのです。冠が無かったことは、君主主義よりもむしろ、共和主義を表わしています。小羊のような角は、無垢で、若々しく、非抑圧的で、平和を愛し、宗教的な国家を意味しています。イエスは黙示録(口語訳聖書)で38回、小羊として言及されています。このように、この新しい政府は神の原則を支持しようとしていました。アメリカ以外に、小羊のような角のある獣の特性と時代とに一致する勢力は他にありません。

注解： アメリカに関するイエスの説明がここで終ればよかったのですが、イエスは説明を続けておられるので、私たちはここで止まるわけにはいきません。次に来る説明は、ショッキングで不安な気持ちにさせるものです。アメリカは確かに、良心、出版、言論、事業の自由のある偉大な国です。そしてアメリカには、好機、公正公平な良識、社会的弱者に対する思いやり、クリスチャン的な強い方向性があります。アメリカは完全な国ではありませんが、アメリカ住民となるのを望んで他の国々からやってくる人々を毎年受け入れています。もしアメリカの門戸が広く開けられるならば、世界中からおびただしい数の人々がアメリカ合衆国をまるで「地上の天国」かのように見なしてすぐに引っ越してくるでしょう。しかし残念なことに、この豊かに恵まれた国は、間もなく非常に激しく変化し、神の民にとって無比の苦悩と災いを生じさせるでしょう。あまり気が進みませんが、私たちはそれを深い懸念をもって知らせたいと思います。



6. 黙示録 13：11 の預言は、アメリカが「龍のように物を言った」と述べていますが、これにはどのような意味があるのでしょうか？

答え： 龍とはサタンです(黙示録 12：9)。彼は地上の様々な政府を通して働きます。それは自分の悪の王国を設立し、神の民を迫害して滅ぼすことによって神の教会を壊滅するためです。サタンのねらいはいつも、神の力とみ座を強奪すること、そして人々を強要して自分を礼拝させ自分に従わせることです。ですから「龍のように物を言った」の意味は、アメリカ合衆国が最後の時代に人々を良心に反して礼拝するにように強要し、それに従わなければ罰せられるでしょうということなのです。

7. 「龍のように物を言」うアメリカは具体的にどのようなことをするようになるのでしょうか？

答え： 次の4つのポイントに注目したいと思います：

A. 「先の獣の持つすべての権力をその前で働かせた」(黙示録 13：12)。アメリカは、迫害する勢力となり、人々の良心に反して彼らを強制的に行動させるようになるでしょう。黙示録 13章の前半で描写されている法王教ローマもこれと同様のことを行いました。



B. 「また、地と地に住む人々に、致命的な傷がいやされた先の獣を拝ませた」(黙示録 13：12)。アメリカは、

世界の国々を導いて、法王教—反キリストを拝み、忠誠を尽くすように強要するでしょう。問題の核心は、常に礼拝です。誰を礼拝し、誰に従うか？創造主であり贖^{あがな}い主であるキリストか？それとも反キリストか？地上のどの人も皆、ついにはどちらか一方を礼拝するに至るでしょう。その完全な働き方は、深い宗教的なものに見えるでしょう。信じ難い奇跡がなされ（黙示録 13：14、15）、莫大な数の人々が欺かれるでしょう（黙示録 13：3）。この運動に参加することを拒む者は、過激な神を信じない者と見なされるでしょう。イエスは、最後の時代のプロテスタント・アメリカを「にせ預言者」（黙示録 19：20、20：10）と呼んでいます。それが宗教的で信頼できるものに見えるからです。しかし実際はそのやり方はサタンのものなのです。

こうした事はとてもあり得ないことのように思われますが、イエスの言葉は常に確かで真実です（テトス 1：2）。イエスは、そんな預言は奇怪で信じられないと思われていた時に、4つの世界帝国と反キリストの興亡を預言しました（ダニエル 2 章と 7 章）。しかし全ての事は預言された通りに正確に起こったのでした。預言に関しての、今日の私たちに対するイエスの忠告は次の通りです。「今わたしは、そのことが起らない先にあなたがたに語った。それは、事が起った時にあなたがたが信じるためである」（ヨハネ 14：29）

C. 「つるぎの傷を受けてもなお生きている先の獣の像を造ることを、地に住む人々に命じた」（黙示録 13：14）。アメリカ合衆国は、宗教的礼拝の法律を制定することによって獣の像を作らざるを得ないでしょう。アメリカは、礼拝を要求する法律を可決し、それに従うか、さもなければ死に直面するかのどちらかに人々を強要するでしょう。この行為は、多数の人々はその信仰のために殺された中世時代の間、法王教がその権力の絶頂の時に用いた政教一致の写しなのです。アメリカは、政府と背教プロテスタントを結合して「結婚」させます。そして、これが法王教を支持するようになります。その時、世界の全ての国々がアメリカの模範に倣うように影響を受けます。こうして、法王教は世界的な支持を得るようになるでしょう。

D. 「また、その獣の像を拝まない者をみな殺させた」（黙示録 13：15）。この国際的な運動の頭としてアメリカは、次に、獣あるいは獣の像を拝むことを拒む者には全世界で死刑の宣告を課すように、世界の国々に影響を与えるでしょう。この世界的連合の別名は「大なるバビロン」。この世界的同盟は、キリストの名によって、警察の力を聖霊の力の代わりに用い、礼拝を強制するでしょう。



8. どのような具体的な論点について、強制力が用いられ、死刑が宣告されるのでしょうか？

「それから、その獣の像に息を吹き込んで、その獣の像が物を言うことさえできるようにし、また、その獣の像を拝まない者をみな殺させた。また、小さき者にも、大なる者にも、富める者にも、貧しき者にも、自由人にも、奴隷にも、すべての人々に、その右の手あるいは額に刻印を押させ、この刻印のない者はみな、物を買うことも売ることもしないようにした。この刻印は、その獣の名、または、その名の数字のことである」（黙示録 13：15-17）。

答え： 最終的な論争点は、獣を礼拝し、獣の刻印、すなわち聖日としての日曜日に従うかということと、これに対して、キリストに従い、キリストの印、すなわち第七日目の安息日を受けるかということ、この二者択一になるのです。この論点が明確になるとき、人々は日曜日に礼拝をして安息日を破るか、もしくは殺されるかのどちらかに強いられます。その時、安息日より日曜日を選ぶ者は、本質的に、獣を拝んでいるのです。彼らは、創造主であるイエス・キリストの言葉に従う代わりに、被造物である人間の言葉に従う事を選んだのです。法王教自身が次のように述べています。「教会は安息日を日曜日に変更した。そして全世界は、その日に屈服して礼拝し、カトリック教会の命令に黙して従うのである」（Hartford Weekly Call、1884年2月22日）。

9. 政府は本当に売買をコントロールできるのか？

答え： 第二次世界大戦中、ある品目（例えば、砂糖、タイヤ、自動車の燃料）を買うことは、配給スタンプ(切符)を義務付けることによってコントロールされていました。スタンプが無ければ、お金は無価値でした。現代のコンピュータ化した時代において、国民一人一人に番号を割り当てられる、共通番号制度は容易に創設することができます。世界的な連合との協力に同意するのでなければ、あなたの番号は、購入時に、不資格と表示されるかもしれません。このような制度がどのような方法で実現してくるかはわかりません。しかし、それが実現することは確かです。なぜなら、黙示録 13：16, 17 において神がそうなると言われるからです。



出現する二つの勢力：

黙示録 13 章は明確です。二つの強大な勢力が最後の時代に現れます。アメリカ合衆国とローマ法王教。アメリカ合衆国は、世界の人々に獣（法王教）を礼拝し、獣の刻印を受けることを強要するための行動を導くことによって、法王教を支持するでしょう。これに従わなければ、死に直面することになります。次の二つの質問で、これらの二つの強大な勢力の強さを評価します。



10. 今日、ローマ法王教はどれほどの影響力を持っていますか？

答え: どの国よりも、宗教的-政治的権力を持っています。2012 年現在、179 の国々から大使、公使が送られてきます！

A. 先進国の指導者は、重大な政治的行動をとる前にバチカンに相談します。
U.S. News and World Report, October 30, 1978, p. 24.

B. 共産主義の崩壊は、イエスの母、マリヤに導かれた戦略でした "Handmaid or Feminist," Time, December 30, 1991, pp. 64, 65.

C. 法王のねらいは、今世紀までには、キリスト教界を法王教の下に置くことです。その目標のために、法王は、40 か国を飛び回ってその基礎作りをしました。

Gene H. Hogberg, The Plain Truth, November/December 1989, pp. 24, 25.

D. 世界中の応答は、驚くべきものでした。イラク危機の時、法王は、米国大統領と毎週電話で相談しました。
U.S. News and World Report, August 13, 1990, p. 18.

E. 1982 年 16 月 7 日に、レーガン大統領とヨハネ・パウロ 2 世は、ソ連解体の崩壊のために 50 分の話し合いをしました。米国は、ポーランドのミサのために近代通信機器をたくさん送りました。

"The Holy Alliance," Time, February 1992, pp. 28, 31, 35.

F. ゴルバチョフは「東ヨーロッパで起きたことは、法王の絶大な努力と政治的役割なしには不可能なことであった。」 Mikhail Gorbachev, Toronto Star, March 9, 1992.

法王は、以前は、プロテスタントを「異端」呼ばわりしていたが、今は「別れた兄弟」と呼び、平和と神の林材のためにみんなが共に働き、祈ることを丁寧に呼びかけました。幾百のプロテスタントは深く感動しました。宗

教改革以来の亀裂を修復しようといくつかのプロテスタントに公的に働きました。

11. アメリカは今日どれほどの権力と影響を持っていますか？

答え：米国は、軍事力において世界のナンバーワンであります。



A. 「アメリカはこの地球で唯一の残ったスーパーパワーである」 "The U.N. Obsession," Time, May 9, 1994, p. 86.

B. 「今のところ米国にライバルとなる力はどこにもない」
Charles Krauthammer, "The Lonely Superpower", The New Republic, July 29, 1992, p. 23.

C. ヤシル・アラファトは「アメリカを『新ローマ』と。なぜなら、米国は古代ローマのように異議なしのスーパーパワーであるから」評して言った。
Newsweek, August 12, 1991, p. 33.

D. 「今日、アメリカはすべての重要な地球上のイベントを決定する力を持っている」
Jim Hoagland, "Of Heroes ...", The Washington Post, August 21, 1991, p. A-23.

「マルクス主義者のグループがエチオピアの政府をひっくり返したとき、アメリカは交渉するように求められました。ボリス・エリツィンが新たに独立したロシアの大統領として就任したとき、彼は最初にアメリカを訪問しました。ミカエル・ゴルバチョフ前 U.S.S.R. 大統領は彼の危機にアメリカに頼りました。クウェートが侵略されたとき、その政府はアメリカを訪問しました。合衆国によってリードされたイラク戦争はほとんど全部の世界の支持を結集しました。国立公共ラジオ通信者がアメリカの大統領を『世界の社長』と呼びました。我々は今『一つの政権、合衆国、と共に国際的なシステムの頂上において大いに異常な世界構造』を持っています」。
Krauthammer, The New Republic, p. 23.

12. 合衆国とローマ教皇の両方の影響と力が速度で拡大していることは明確です。

言うことを聞かない者たちを罰する世界的な法律がつくり上げられるどんな他の要因が考えられますか？



答え:明確なことは挙げられませんが、可能性として次のようなものが考えられます：

- A. テロ活動
- B. 増加する暴動
- C. 麻薬戦争
- D. 経済崩壊
- E. エイズや他の流行病
- F. 過激派国の核兵器の脅威
- G. 政治的腐敗
- H. 増加する裁判の不正
- I. 福祉の乱用
- J. 増税
- K. ポルノや嫌悪すべき不道徳の増加
- L. 世界的な大災害の増加



M. 格差の増大

N. 中絶問題

等々の問題は、世界的な厳しい法律が供される要因となるでしょう。

13. 世界の状態が悪くなるにつれ、サタンは大衆を惑わすためにどんなことをするでしょうか？

黙示録 13:13 「また、大いなるしるしを行って、人々の前で火を天から地に降らせることさえた。

13:14 さらに、先の獣の前で行うのを許されたしるしで、地に住む人々を惑わし、かつ、つるぎの傷を受けてもなお生きている先の獣の像を造ることを、地に住む人々に命じた」。

答え：アメリカは、偽の世界的なリバイバルを経験し、すべての人が参加するように宗教的法律を強要するでしょう。（これが黙示録で言っている「獣の像」と言われるものです）。人々は、神の聖なる七日目安息日を無視し、獣の「聖日」一日曜礼拝を強要されるでしょう。ある者たちは、社会的、経済的理由で従うでしょう。世界の状態があまりにも悪くなるので「神に立ち返れ」運動が起こり、日曜日に礼拝することが唯一の解決だと思われるでしょう。しかし、獣を礼拝することは、神の国から締め出されることになるのです。ですから、イエスは、黙示録に獣を拝み、その刻印を受けることに強い警告を発しておられるのです。

14. 世界的な偽のリバイバルが盛り上がって来るとき、神の民にどんな真実なリバイバルが起こると言われていますか？

答え：聖書は全世界に主の栄光で照らされると預言しています(黙示録 18:1)。世の終わりの時には、すべての世界が黙示録 14:6-14にある、三重の使命が伝えられます。全世界で多くの人々が獣とその刻印を拒否し、神の戒めを守り、従う人々が真理の側に立つでしょう。神に従う人々は、神の聖なる安息日を守る故にその額に神の印を受けるのです。(黙示録 7:2, 3)

15. 終わりの時の強力な惑わしから守られるためにどうすればいいですか？

答え：すべてのこと聖書のみによって試すことです。識別することです。

- ・イザヤ 8:19,20 「人々があなたがたにむかって「さえずるように、ささやくように語る巫子および魔術者に求めよ」という時、民は自分たちの神に求むべきではないか。生ける者のために死んだ者に求めるであろうか。ただおきてとあかしとに求めよ。まことに彼らはこの言葉によって語るが、そこには光がない」 欽定訳。
- ・2テモテ 2:15 真理の言葉
- ・使徒 17:11 日々聖書を調べる

「オコンナー司教は、『カトリックの世界に危険を及ぼすことなく反対政策を実施できるようになるまで、信教の自由をがまんしているにすぎない』と言っている。……セントルイスの大司教は、かつて次のように語った。

『異端や不信仰は犯罪である。だから、たとえばイタリアやスペインのように、すべての人がカトリック教徒であって、カトリック教がその国の法律の不可欠な一部となっているキリスト教国においては、こうしたことは他の犯罪と同様に処罰される』。

カトリック教会のすべての枢機卿、大司教、司教が、法王に対して、忠誠の宣誓を行うが、その中に次のような言葉がある。『われわれの上記の主(法王)、またはその後継者に対する異端者、分離者、反逆者たちは、私が全力をあげて迫害し阻止する。』

Michael Geddes, “Church History of Ethiopia,” p311,312

